

# 大草原の国・モンゴル



5月17日(金)、城東公民館で国際理解出前講座を実施し、25名が参加しました。講師はモンゴル出身のアサルト・レンツェンホルロー・オユングレルさんです。一度聞いただけでは覚えられない長いお名前ですが「オーヨーと呼んでください」とのうれしいお言葉をいただきました。

「サインバオイノ」とモンゴル語のあいさつから始まりました。「日本のお母さんはすごい!」と最近、実感されたとのこと。彼女自身も毎日5時起きでお弁当を作り、お子さんの送迎をされていて、まさに日本でお母さんとして大活躍されています。

90年代に社会主義から民主主義になったことにより、日本のテレビ番組や漫画など、日本の文化が紹介されるようになったそうです。また、社会主義時代にあった階級制度は廃止されたものの、以前は無料だった教育費などが必要になりました。その変化に対応するのはなかなか大変だったことでしょう。



そして、驚いたのは、モンゴルの平均年齢が26.8歳(日本は48.4歳※2022年時点)と、とても若い人の多い国であることです。子供を4人以上産んだら表彰されてメダルがもらえるそうで、子だくさんの家庭も多いそうです。

また、遊牧民の生活やお正月の過ごし方、ナーダムという秋のお祭りなども紹介していただきました。ナーダムは相撲や競馬、弓道を多くの人を楽しむ一大イベントです。

講座終了後も遊牧民の現状や産業、国旗の意味など、様々な質問にもお答えいただき、とても有意義な講座となりました。